

令和7年度第1回岩手県アレルギー疾患医療連絡協議会

1 開催日時及び場所

令和7年7月29日（火）18：30 から 県庁12階特別会議室（Web 併用）

2 出席者の氏名

（1）構成員

赤坂真奈美構成員、天野博雄構成員、金村清孝構成員、北舘真由美構成員、木村啓二構成員、佐々木美香構成員、瀬川郁雄構成員、高林江美構成員、千葉隆二構成員、藤本穰構成員、長島広相構成員、村里智子構成員、目時のり構成員、山内広平構成員、山内美枝構成員、吉岡美子構成員

（2）事務局

千葉智貴保健福祉部健康国保課総括課長、阿部功博健康予防担当課長、小野儋子特命課長、坂下藤子主任、高橋栞菜技師、佐賀唯衣保健福祉部子ども子育て支援室主任、菊池英里教育委員会事務局保健体育課指導主事、山生睦指導主事

3 議事の概要

（1）開会

（2）挨拶

千葉智貴健康国保課総括課長より挨拶を述べた。

（3）構成員紹介

名簿により紹介

（4）会長の互選及び職務代理者の指名について

会長に天野博雄構成員を互選、職務代理者に木村啓二構成員を指名した。

（5）協議

① 令和7年度岩手県アレルギー疾患対策事業計画について

事務局から資料1により説明した。

【質問・意見等】

○村里構成員 学校におけるアレルギー対応指針の改訂にあたり、意見を述べさせてもらい、良いものができたと思います。公立学校の教職員対象の研修を予定しているようですが、現場の責任者である校長先生への研修会の開催も検討をお願いします。

○事務局 教育委員会事務局保健体育課 アレルギー対応指針の改定に係る研修については、学校保健推進担当を対象としています。ただし、今年4月から、市町村教育委員会や校長会など様々な機会を捉え、改定した指針の周知をしており、今後も様々な方法を交え、管理職も含め周知を進めていきたいと思っています。

○木村構成員 人材育成に関して、昨年まで大阪はびきの医療センターへの職員派遣というのがありましたけど、今年はないのでしょうか。

○事務局 令和4年度から3年間にわたって、年間2人ずつ派遣をし、昨年まで計6名の方、薬剤師、看護師、管理栄養士と、それぞれの職種の方々に受講いただきました。6名の方々には、県内各地で研修の学びを生かし活動いただくこととし、はびきの医療センターとは、3年間という期間で、派遣の方は一旦終了とさせていただきました。

○木村構成員 盛岡医療センターから薬剤師を1名派遣しましたが、人事異動があり転勤になりました。それぞれの病院で人は変わるので、可能であれば、次年度事業で継続派遣を検討いただければと思います。

② 岩手県アレルギー疾患医療拠点病院における令和7年度診療体制及び取組計画について 岩手医科大学及び盛岡医療センターから資料2により説明

【質問・意見】

○木村構成員 アレルギーの会で災害時のアレルギー対応炊き出し訓練を企画しており、盛岡医療センターも協力します。県の総合防災訓練を年に1回行いますが、その中でアレルギーの食事の問題は考えられているのでしょうか。単独で取り組んでも、広まらないような気がしまして、そういう県の総合的な、防災対策の訓練に一括して組み込まれればよいのではないかなと思っているのですが、県の方はどうでしょうか。

○事務局 県の総合防災訓練の中にアレルギー対応を組み込むことは、実際問題として難しいと思います。今回アレルギーの会の方で実施をしていただく訓練については、県の防災課からも、市町村の防災担当や関係機関へ参加の働きかけをしていると聞いています。

○山内（美）構成員 炊出し訓練について、アレルギーの会から県の防災担当を通じて市町村防災担当へ参加募集をかけましたが、参加者が集まらず残念に思っています。防災担当の皆様が、もっと積極的に災害時のアレルギー対応に、取り組む必要があると考えています。また、自主防災組織向けの研修が毎年行われているので、その中で30分でもアレルギーに関するお話をする機会を作ってもらえるよう依頼をしており、今年度は自主防災組織向けにお

話しするお時間はいただけたらと思います。アレルギー患者には、災害時にどのような問題があるのかということと、避難所でお食事を提供する際にはこういう配慮が必要だということを実際に知っていただきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。

○長島構成員 資料2の訂正をお願いします。岩手医大の、医療体制について、呼吸器内科の専門医が2人うち1人非常勤とありますが、専門医は3人うち1人非常勤です。

○長島構成員 総合防災訓練について、感染制御の方で毎年防災訓練に参加していますが、確かにこのアレルギーの枠組はあったほうがいいと思います。一方で、防災訓練で食事を配るところはまだ実際やってなくて、避難所をどうやって設置するかとか、どうやってそこまで避難するとか、防災訓練ではシステマティックな人の流れがメインですので、そういったところに、新たな枠組みを作っていく必要性はありますが、ただ非常に、有意義だと思います。大変と思いますが、今後、進めていければと考えています。ぜひお力になりたいと思いますので、県の方々、前向きに検討いただければと思います。

○佐々木構成員 災害があったときに、どう動くかというのは、県の方で、もう当然示しているというか、ある程度決まっているものなのでしょうか。

○事務局 基本的には災害が起きたときには、市町村が主となって動くことになっておりまして、県はその市町村をサポートする形になっております。構成員の先生方からいただいたご意見は参考にさせていただきながら、検討して参りたいと思います。基本的には、市町村が中心で動いて、被災市町村からの要請があつて、県が動くという流れになっております。

○天野会長 この問題は随分前の災害が起こったときから、話題になりますよね。災害は最近増えているので、実際起きた時に誰が担当で、どこがどう動くのかっていうのが分かっているかないと。

○赤坂構成員 県の防災訓練は2部制で、今年は医療的ケア児を行います。次回はアレルギーも私の方から提案してみたいと思います。

○佐々木構成員 各市町村に理解していただく必要があるということです。実際動くのは、各市町村なので、災害時のアレルギー対応に関しては、市町村へ働きかけた方が効率的ということでしょうか。実際食事を作るというのはまた別として。その中で、避難所の環境や食事提供など、アレルギー患者がいた場合のことをどこまで考えているかどうか。

○山内（美）構成員 だから、流れができていないと難しいですね。訓練で実際にやってみることにすれば、食事を提供するときにはこういう掲示が必要であるとか、具体的に声掛けがあったほうがいいですねっていうことが理解いただけると思います。文章だけだと分からないと思います。

○事務局 その通りで、やはり市町村の方々に一番理解していただかなければならないところだと思いますので、いろいろな機会を見つけて、研修、周知をしっかりとしていきたいと思います。

○赤坂構成員 8月31日のアレルギー食の炊き出し訓練について、番組で宣伝する機会を得たので、協力をお願いします。

○山内（美）構成員 メディアで取り上げていただくことで、実際の災害時のアレルギー食について周知する良い機会だと思いますので、よろしくお願いいたします。

○天野会長 災害のこと、かなり大事です。でも、そのスキームというか、こういうときはこう対応するというのがみんな分かって共有できていないと。患者さんの誤食事故やアレルギー疾患の悪化は、一般の避難所に起こりうることで、これはしっかりとやっていけないなというふうに思います。県だけじゃなくて、各市町村で取り組むべきということも分かりましたので、少しずつ進めていければと思います。

③ 各関係団体におけるアレルギー疾患対策の取り組み状況について 事務局から資料3により説明した。

【質問・意見】

○山内（美）構成員 災害時のアレルギー患者支援の連携体制を今年度、ぜひ、決定まで持っていきたいと思っています。ここは岩手県栄養士会と岩手県で途中まで検討を進めていたかと思いますので、ぜひ、決定してほしい。アレルギー患者がどこに連絡すれば支援をいただけるのか。あと、病院の話ですと、どこの病院に行けばアレルギー診てもらえるのか。災害時ですとやっぱり、いつも見ている病院がやっていない場合もありますので、あとは避難所で、アトピー性皮膚炎が悪化したときにどう対処すればいいのかとか、あと食べ物がないときに、どこに行けばいいのかですね。相談窓口がここで、連絡をすれば、物資を提供して集めて、誰が物資をどう届けるのかというところの体制はきちんと決定したいと思っています。

これ石川県が体制決定していて、報告資料では石川県モデルということですが、岩手県では、同じようにはならないと思います。例えば、災害時に相談先は1ヶ所であるべきだと思いますし、病院の役割や、どこの機関がどういう役割を担うのかというところを、きちんと明確にして、今年度は決定まで持っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○佐々木構成員 実際問題、私たちが体験したところでは、病院は患者さんたちのケアの方が大切になります。ですから、病院を介したアレルギー食の対応は、実際的には、まず絵に描いた餅のようなものです。なので、避難所や在宅避難の患者さんには、病院を介さなくても動けるように、自治体でやっていただけるのが一番いいのではないかと思います。

○村里構成員 盛岡市のこども未来部母子健康課に、ヒヤリハットのことでお願いをした経緯があります。保育施設でのヒヤリハット事例の公開を相談したところ、すぐにホームページの方に公開をしてくださいました。事例に対する対応も公開されており、とても参考になります。他の市町村もぜひ追隨していただければありがたいかなというふうに思っています。

④ 乳幼児アレルギー疾患患者の実態把握について

事務局から資料4により説明した。

【質問・意見等】

○天野会長 資料2ページ目を見ると、人口が多い市がどこも入っていないということでしょうか。

○事務局 必ずしもそうというわけではありませんが、傾向としてはその通りです。

○天野会長 質問表の「無回答」という設問に、違和感がありますが。設問に「不明」はないのですか。

○事務局 選択肢としては、「はい」か「いいえ」の2択となり、回答いただけていない場合に、整理する都合上「無回答」を選択します。

○佐々木構成員 「アレルギー」というと、幅広に捉えられてしまう可能性があり、食物アレルギーと限定しました。なぜかという乳幼児喘息とかアトピーとかになると、非常に曖昧になってしまいますので、食物アレルギー、そして医師から、「診断された」というように、限定しています。自分で勝手に判断して回答することがないように、「医師の指示で」に下線を引いていただきました。これだと、2択で回答可能です。

○佐々木構成員 1つ質問です。令和8年度からは全市町村でやることになりますよね。

○事務局 令和8年度以降は、必須項目という形で進めたいと思っておりますので、基本的には全数というふうに考えております。

○佐々木構成員 安心しました。そのようにお願いします。

○村里構成員 こちらのアレルギーの項目の選択っていうのがすごく難しいと思っていて、今はナッツ類、いわゆる木の実が小麦を抜くような勢いで増えてきている。「木の実」で1つにまとめてよいのか、木の実というものの意味自体を、お母さんたちがどこまで理解できるかが懸念です。例えばくるみとかカシューナッツというような例を挙げて、答えてもらうことはできるのでしょうか。

○事務局 質問が多いと、質問紙のスペースを取ってしまうので、質問は少ない方がいいのかもしれません。ただ、「木の実」というものが具体的にどういうものを指すのかといったことを、十分に理解できない方もおられるかと思いますので、幾つか例示を挙げるというふうなことは、考えたほうがいいかなと思います。

○佐々木構成員 設問では、ピーナッツと木の実を別にしていて、ナッツ類として一括りにされがちですが、全くの別ものです。でも、一般的にはナッツ類っていうことで、ピーナッツも含むと誤解されるので、木の実の種類を、「○○などを含む」っていうふうにして、注記する必要もあると思います。最後の設問に、「その他」がありますが、その他の内容は聞かないのでしょうか。

○事務局 基本的には自由回答はない形にしたいと思っております。

○山内（美）構成員 これは紙での回答ですか。オンラインで回答できないのですか。

○事務局 市の健診の問診表なので、紙になります。保護者の方が、食物アレルギーがありますと、回答に丸をつけてきた場合は、その健診会場での、栄養指導なり、保健指導なりを受ける対象になってくるかと思しますので、そこでいろんな相談をしたいということが入ってくるかと思します。

○天野会長 紙に書くから、誰かが入力しなければならないということですね。結局、質問の数が増えてくるとそれだけ入力する手間も増えてくる、それから紙面も割く。市町村の負担はこの2点が大きくあるかと思します。

逆に言うと、タブレットなどで回答できれば、本当は、入力する手間もないし、紙はいらない、自動集計もできる。そういう可能性もある。

○事務局 可能性としては将来そうなるのかもしれませんが、現在紙で行っているので、まずはこれでやっていければと思います。

○事務局 保健福祉部子ども子育て支援室

今、母子保健のデータ化、電子化が進んでおりまして、マイナポータルや、マイナンバーカードを使って、市町村がデータを管理するのが、徐々に広まってはきています。

その際に、市町村がもともと持っている、単独のシステムと連動させるための改修や、市町村が独自でデータ収集するための追加問診項目とか、逆に減らせる質問もあるのかという検討も必要で、すぐには難しいし費用も伴うものです。国の動向としては、マイナンバーを活用した情報連携は、増えているので、将来的には問診表も紙ではなくなるかと思います。

どのようにデータを取っていくか、どのように申し入れていくかの検討は、その段階、その段階で都度必要になってくるかと思っております。

○佐々木構成員 東京都の全数調査では全都調査というのがあります。3歳児健診だけで5年に1回行われていますが、質問が細かい、恐らく、栄養士さんや保健師さんがついて、1つ1つ丁寧に問診していると思います。そこまではいなくても、アレルギーがあるかどうかだけでも、データがとれるっていうことは前進じゃないかなというふうに思っています。

○天野会長 とにかく始めてみて、大きな動きがあった際は、その都度修正を検討するということですね。

本日の協議会では、災害の話題がでましたが、災害というのはそのたびに思いがけない問題が出てきます。アレルギーに対する理解も啓発しているけど、高まっていないというところもあり、一緒に考えていく必要があると感じました。

⑤ その他

次期協議会日程をお知らせした。

(6) 閉会